

—ムラサキ—



撮影：2020.6.2

学名：*Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zuccarini

科名：ムラサキ科 Boraginaceae

属名：ムラサキ属 *Lithospermum*

形態：日本、中国、朝鮮半島など東アジアに分布する多年草。

葉は披針形の単葉で、互生螺旋葉序をなす。葉柄はない。葉には微細な毛が多数存在する。初夏には5枚の白い花弁からなる小さい花をつける。ムラサキ科特有の巻散花序をなす。茎は直立で草丈30-60cmほど。根は太く、名前の由来である紫色を呈している。

成分：ナフトキノン類：shikonin, acetylshikonin, isobutylshikonin, β , β -dimethylacrylshikonin 等
カフェ酸誘導体：rosmarinic acid, lithospermic acid

薬用部位：根

用途・処方：腫瘍、火傷、凍傷、湿疹、水疱、痔疾などに軟膏として外用。または漢方で消炎、解熱、解毒を目標に服用する。

製剤：紫雲膏(火傷などの皮膚疾患に有効)

紫根牡蛎湯(虚証患者の皮膚炎やリンパ腺炎などに有効)

薬理作用：shikonin, acetylshikonin には創傷治癒促進作用(抗炎症、毛細管透過性亢進、急性浮腫抑制、肉芽増殖促進)、殺菌作用、抗腫瘍作用

その他：当植物園では、薬用部位である根を効率よく生育させるために、筒を用いた栽培を行っている。律令制度が制定され、冠位十二階を冠の色で区別した時代において、一番高貴な位である徳冠の紫色は、本植物の根で染めたものとされる。野生株は激減しており、環境省レッドリスト2017では絶滅危惧I B類(E N)に指定されている。

参考文献：武田薬品工業(株)京都薬用植物園 <https://www.takeda.co.jp/kyoto/area/plantno156.html>

摂南大学薬学部附属薬用植物園 HP <https://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/menu.html>

水野瑞夫 薬用植物学 改訂第7版 南江堂

池城安正 第6版 天然医薬資源学 廣川書店

平成30年度 医薬資源学実習 実習書 東京理科大学薬学部

2020.6.3 4YM TM